

岩手・山形県における作物在来種の探索収集

勝田 真澄¹⁾・長峰 司¹⁾・佐藤 喜美雄²⁾

農業生物資源研究所

1) 遺伝資源第一部・植物探索導入研究チーム

2) 遺伝資源第二部・植物栄養体保存研究チーム

Exploration and Collection of Grain Legumes and Millets in Iwate and Yamagata Prefectures

Masumi KATSUTA¹⁾, Tsukasa NAGAMINE¹⁾ and Kimio SATO²⁾

1) *Laboratory of Plant Germplasm Introduction, Department of Genetic Resources I, National Institute of Agrobiological Resources, Tsukuba, Ibaraki, Japan*

2) *Laboratory of Plant and Tissue Preservation, Department of Genetic Resources II, National Institute of Agrobiological Resources, Sinjo, Yamagata, Japan*

Summary

We had already conducted a field survey throughout the Kanto region and we proceeded to Tohoku. We visited several villages in Iwate and Yamagata Prefectures from October 22 to 26, 1990 to collect local varieties.

A total of fifty nine samples were collected. As food legumes, 18 samples of soybean (*Glycine max*), 6 of common bean (*Phaseolus vulgaris*) and 10 of adzuki bean (*Vigna angularis*) were collected. Although three of the legume samples were designated as “Kuro-adzuki (black adzuki bean)”, they included not only adzuki bean but also cowpea and common bean. Compared with the accessions from the Kanto region, the variation in food legumes were limited in this area.

For millets, 4 samples of common millet (*Panicum miliaceum*), 4 of foxtail millet (*Setaria italica*), 3 of sorghum (*Sorghum bicolor*) and 2 of Japanese barnyard millet (*Echinochloa utilis*) were collected. Two samples of *S. italica* have been cultivated since the Meiji era in Rikuzen-takada, Iwate prefecture.

Three samples of grain amaranths (*Amaranthus hypochondriacus*), one of job's tears (*Coix lacryma-jobi*), 2 of buckwheat (*Fagopyrum esculentum*), one of tartary buckwheat (*F. tataricum*) and 5 of perilla (*Perilla frutescens*) were also collected in Iwate prefecture.

One sample of rice (*Oryza sativa*), locally called Nakashin or Kizunaimochi, was a cold-tolerant variety selected from local varieties by a farmer, Mr. Montaro Michimata.

Sixteen of the accessions were collected from a restaurant in Sawauchi-mura (village), Iwate prefecture. This restaurant requests farmers in the village to cultivate perilla, grain amaranth, sorghum, tartary buckwheat, etc., and sells the seeds as souvenir for tourists. Most of local varieties were kept by women who have special interest in traditional foods. Several accessions have been introduced from other areas recently, suggesting that particular local varieties have spread over wide areas through seed exchange recently, resulting in the simplification of crop varieties.

Most of the farmers in those areas had never cultivated millets since more than 30 years ago like in the Kanto region. It is thus important to collect millet germplasm in the Tohoku region.

KEY WORDS : local varieties, Yamagata Prefecture, Iwate Prefecture, grain legumes, millets

1. 目的

国内における在来品種の栽培は、作目の単純化や新品種の浸透などによって著しく減少した。近年では、伝統的な食生活を続ける農家などで、自家消費用として在来品種が小規模に栽培・保存されていることが多い。この中には地方の気候特性や用途に適応した品種が多く含まれており、有用な遺伝資源としての利用が期待される。しかし、農業就労者の高齢化にともなって自家採種品種の栽培を行う農家も年々減少の一途をたどっている。

このような地域特有の在来種の栽培状況を調査し、遺伝資源として保存・維持するため国内での探索調査を続けてきた。

1988年度までに、茨城・群馬・埼玉県などの北関東地方および新潟・長野県において調査を行った。群馬県などの一部地域では、雑穀・豆類在来種の栽培が続けられており、多様なサンプルを収集した^{1)・2)・3)}。

本年度からは、対象地域を東北地方に移して調査を行う。初年度として、東北中部の広い地域における在来品種栽培状況の調査を目的とした。調査対象地域は、岩手県および山形県内の内陸地域である。

2. 調査方法

調査は、1990年10月22日から26日まで実施した。調査地域を、Fig. 1に示す。

岩手県では南部の内陸地域を対象として、10月22日から25日まで長峰 司・勝田真澄が、生物研業務科・吉田次男技官と吉田昭男技官の協力で調査・収集を行った。

25日および26日は、生物研新庄分室の佐藤喜美雄技官・泉谷幸治技官が加わって、山形県真室川町および新庄市周辺での調査を行った。

各地域とも、集落あたり1戸から2戸の農家で在来品種の栽培状況について聞き取りを行うとともに、集落内での栽培に関する情報を収集した。これらの情報に基づいて、在来品種を栽培する農家などを訪問・調査し、可能な場合は種子の分譲を受けた。

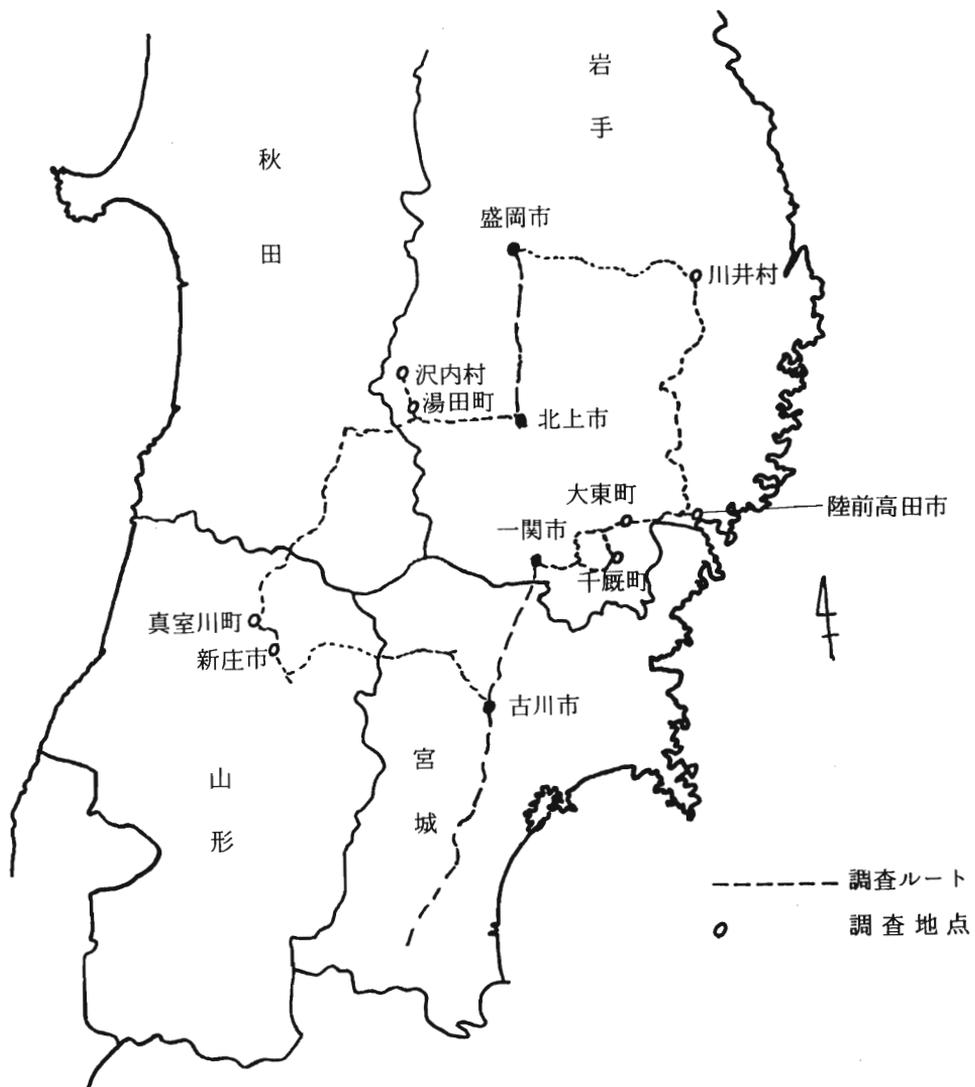


図1 調査ルートおよび調査地点

3. 調査地域の特徴と在来品種の栽培状況

調査は内陸地域でおこなった。今年度は、東北中部における情報の収集を目的としてできるだけ広い範囲に調査地点を選んだ。

岩手県で調査を行ったのは、一関市から東へ30 kmほどの大東町・千厩町・陸前高田市、である。これらは、北上川に流れ込む千厩川や砂鉄川沿いの標高100 m程度の地域である。川沿いの緩やかな傾斜地に畑が作られており、周囲には標高500 m程度の山が迫っている。大東町で雑穀を栽培していたのは、料理研究会の婦人たちであった。しかし、その種子を入手した経路は様々であり、農産物センターなどを通じて購入したり、他地域の知り合いから譲渡されたものが多かった。ただし、陸前高田市で栽培されていたアワ・キビは農家が明治頃から栽培しているものであった。これら地域の気候は岩手県内では比較的温暖であり、稲作も早くから行われていたため、雑穀の栽培は30年ほど前から行われなくなったという。

つぎに調査を行った川井村は、遠野市から早地峰山の東へかけての地域で、立丸峠（標高750 m）から下って標高は300 mから500 mであった。標高500 mの中仁沢地区で稲を栽培し始めたのは約15年前のことで、それ以前には食用として雑穀類を栽培していたというが、現在栽培している農家はなかった。これらの地域で現在栽培されているのは、自家用のアズキ・インゲンマメ・エゴマなどである。標高330 mの関根地区では、農家によって株選抜された耐冷性イネ在来種が栽培されていた。

北上市からさらに30 km西の山間に、沢内村がある。県道沿いにあるドライブイン「およね食堂」では、付近の農家と契約栽培した雑穀・雑豆類を販売していた。

山形県は真室川町周辺で調査を行った。平坦な水田地域であり、雑穀の栽培はほとんど行われていなかった。しかし、豆類とくにダイズの品種が豊富で、一戸の農家で利用目的によって複数の品種を栽培していた。新庄市内の味噌業者は、品質の点から在来品種を自家栽培していた。アズキも早生と晩性の2品種を栽培しており、豆類については今でも栽培が続けられている傾向が見られた。

4. 収集品種の特徴

収集品の内訳を、Table 1 に示す。

雑穀類で自家消費用に栽培されていたのは、陸前高田市で収集したアワ2点(90007, 90008)・キビ2点(90009, 90010)・ソルガム1点(90011)で、アワ・キビの種子は明治頃から栽培を続けているものであった。これ以外の雑穀類は、特産品(90006, 90028)や販売品(90029-90035, 90081-90089)などで、二戸市など他の地域から種子を入手したものも多い。

ダイズは、岩手県内では品種が単純である。おもに、自家用の煮豆・枝豆・浸し豆などに用いられている。種皮色は黒か緑で、緑に黒く斑の入ったクラカケが栽培されていた。種皮色緑の品種には丸粒と偏平粒があり、アオバタ(90003, 90019)・アオマメ(90027)・サシミマメ(90018)などと呼ばれており、この名称は北関東と共通していた^{2),3)}。一方、山形県では、真室川町内だけで9品種を収集した。種皮色は黒・緑・白で、丸粒・偏平粒があった。ヒトリ

Table 1. Collected materials

収集品の内訳

種 属 名	岩手県	山形県
雑穀類		
<i>Echinochloa utilis</i>	2	
<i>Setaria italica</i>	3	
<i>Panicum miliaceum</i>	3	
<i>Sorghum bicolor</i>	4	
豆 類		
<i>Glycine max</i>	8	10
<i>Phaseolus vulgaris</i>	5	
<i>Phaseolus coccineus</i>	1	
<i>Vigna angularis</i>	6	3
<i>Vigna sinensis</i>	1	
その他		
<i>Oryza sativa</i>	1	
<i>Amaranthus hypochondriacus</i>	3	
<i>Coix lacryma-jobi</i>	1	
<i>Fagopyum esculentum</i>	2	
<i>Fagopyum tataricum</i>	1	
<i>Perilla frutescens</i>	5	
計	46	13

ムスメと呼ばれる晩性の緑白色の品種（90039）は、過熱気味でも枝豆になることから、農家の庭先で栽培されていた。クロマメは、丸粒の早生はイツツッパマメ（90038, 90045）、偏平粒のものはピットラマメ（90036）とも呼ばれていた。新庄市内の味噌業者が栽培していたカネモチマメ（90048）は、やや大粒の白色粒品種である。スズユタカより収量は2～3割減少するが、玄米味噌に向くので自家栽培しているとのことであった。

アズキは、岩手県で黒莢の在来種（90005）が、こし餡の歩止まりが良いので栽培されていた。山形県で栽培されているのは味の良い白莢の品種で晩性（90042）と早生（90043）があった。クロアズキの呼称で3点サンプルを収集したが、沢内村で販売されているのはササゲ（90086）と小粒のインゲンマメ（90031）であった。真室川町で収集した赤地黒斑の品種（90042）はクロカワアズキとも呼ばれ20年前に譲り受けた品種で、こし餡の歩止まりがよいので今も買い手がつくという。岩手県内で収集したシロアズキ（90016, 90032）のうち千厩町の収集品（90016）は、早く煮えるということで最近栽培を始め、種子は室根町から譲り受けたものであった。

インゲンマメは、関東地方に比べると種皮色などの変異が乏しく栽培も稀であった¹⁾。

エゴマは5点収集した、種皮色は黒（90020, 90029）と白（90014, 90030, 90080）があった。黒色種は油が多いが、食用としては白色が好まれている。呼称は、大東町ではジュウネ、沢内村ではツブアブラであった。

川井村で収集したイネ（90026）は、ナカシンあるいはキズナイモチと呼ばれる糯品種で、地元の農家（道又紋太郎氏）が耐冷性の個体を選抜した品種という。粳の在来品種もあるとの情報も得たが、小国地区周辺に見いだすことはできなかった。

この他、ソバ2点・ダットンソバ1点・アマランサス3点などを収集した。ダットンソバ（90085）はドライブインからの後送品であるが、「新作物」として近年導入し栽培を始めたものと思われる。

5. 所感

今回は、東北中部における在来品種の栽培状況の全体像を把握するため、広範囲で調査を行ったが、東北地方においても在来品種の滅失は著しく進んでいた。

雑穀類は、20年から30年以前に栽培を行わなくなった例がほとんどである。豆類も自家用として栽培しているが、多品種を栽培することは少ないようである。

これまでの関東での探索と同様に^{1).2).3)}、在来品種の栽培を続けているのは、食生活に興味を持った婦人が中心であった。このような農家では、比較的多様な作付が行われている。また、今回は雑穀・雑豆をおみやげとして販売しているドライブインで多くの種子を入手することができた。今後は、このような形でも在来品種の生産が維持されて行くと考えられる。ただし、一度種子を失った場合には他地域の知り合いなどから種子を譲り受けている場合が多く、特定の在来品種が広範囲に栽培され品種が単純化してきている。したがって、収集を行う際には種子の由来を注意深く調査する必要がある。

今回の探索に当たって、突然の訪問にも係わらず快く調査に協力して下さった農家の方々に

深く感謝いたします。

6. 参考文献

- 1) 江川宜伸 1988. 遺伝資源の探索・保存・配布の現状について (1)国内収集について.
昭和62年度生物研研究業績検討会資料 1-4.
- 2) 岡 三徳・長峰 司・河瀬真琴・江川宜伸・勝田真澄・中川原捷洋・山下道弘・池主俊昭・佐々木行雄・飯塚 清 1988.
群馬県南西部, 新潟県中越地方および福島県南会津地方における豆類および雑穀類の収集, 生物研, 1987年. 植探報 4:1-19.
- 3) 勝田真澄・宮下 進・飯塚 清・中川原捷洋 1989. 埼玉県, 長野県における雑豆および雑穀類在来種の探索収集, 生物研, 1988年 植探報 5:1-9.

Table 2. A collection list in Iwate and Yamagata Prefectures

収集現地記録表

番号	収集	種 属 名	品種系統名	収集場所	収 集 地	標高 (m)
90001	10.22	<i>Glycine max</i>	クロマメ	圃場	岩手県東磐井郡大東町摺沢字流矢	50
90002	〃	<i>Glycine max</i>	クラカケ (フチマメ)	〃	〃	50
90003	〃	<i>Glycine max</i>	アオバタ (アオマメ)	〃	〃	50
90004	〃	<i>Glycine max</i>	クロマメ	〃	〃	50
90005	〃	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	〃	岩手県東磐井郡大東町曾慶	100
90006	〃	<i>Sorghum bicolor</i>	タカキビ	〃	〃	100
90007	10.23	<i>Setaria italica</i>	アワ	農家貯蔵	岩手県陸前高田市矢作町字中平15-1	80
90008	〃	<i>Setaria italica</i>	アワ	〃	〃	80
90009	〃	<i>Panicum miliaceum</i>	コキミ	〃	〃	80
90010	〃	<i>Panicum miliaceum</i>	コキミ	〃	〃	80
90011	〃	<i>Sorghum bicolor</i>	タカキビ	〃	〃	80
90012	〃	<i>Fagopyrum esculentum</i>	ソバ	〃	〃	80
90013	〃	<i>Amaranthus hypochondriacus</i>	アマランサス	圃場	岩手県陸前高田市矢作町字坂下	-
90014	〃	<i>Parilla frutescens</i>	ジュウネ	農家貯蔵	岩手県東磐井郡大東町浜民字和田	150
90015	〃	<i>Coix lachryma-jobi</i>	ハトムギ	〃	〃	150
90016	〃	<i>Vigna angularis</i>	シロアズキ	〃	岩手県東磐井郡千厩町小梨字南(ウンナン)	90
90017	〃	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	圃場	〃	90
90018	〃	<i>Glycine max</i>	サシミマメ	〃	〃	90
90019	〃	<i>Glycine max</i>	アオバタ	〃	〃	90
90020	〃	<i>Perilla frutescens</i>	ジュウネ	農家貯蔵	岩手県東磐井郡大東町下中川壘石	150
90021	〃	<i>Sorghum bicolor</i>	タカキビ	圃場	〃	150
90022	〃	<i>Echinochloa utilis</i>	ヒエ	雑草	岩手県下閉伊郡川井村小国新田(国道340路傍)	580
90023	10.24	<i>Fagopyrum esculentum</i>	ソバ	農家貯蔵	岩手県下閉伊郡川井村小国字中仁沢	500
90024	〃	<i>Phaseolus vulgaris</i>	ササギ	〃	〃	500
90025	〃	<i>Phaseolus vulgaris</i>	ササギ	〃	〃	500
90026	〃	<i>Oryza sativa</i>	ナカシン (キズナイモチ)	圃場	岩手県下閉伊郡川井村小国字関根14-11	330
90027	〃	<i>Glycine max</i>	アオマメ	〃	岩手県下閉伊郡川井村小国字湯沢	340
90028	〃	<i>Setaria italica</i>	アワ	〃	岩手県和賀郡湯田町大沓	-
90029	〃	<i>Perilla frutescens</i>	ツブアブラ	市場	岩手県和賀郡沢内村	-
90030	〃	<i>Setaria italica</i>	ツブアブラ	〃	〃	-

耕種概要	用途	農家名	備考
6月上播種, 11月上収穫	煮豆(甘), 枝豆	青柳マツオ	種子色・ヘソ黒, 偏平粒
6月上播種, 10月下収穫	煮豆(甘), 枝豆, 酢の物	青柳マツオ	偏平粒, ヘソ黒種子色緑黒斑, フチマメは年寄りの呼び方
6月上播種, 11月上収穫	煮豆(甘), 酢の物	青柳マツオ	ヘソ黒, 丸粒, 種子色緑
6月上播種, 10月下収穫	煮豆, 枝豆	那須 徳美	丸粒, ヘソ・種子色黒
6月播種, 10月下収穫	アanko, 赤飯	小山 一志	黒莢(在来種), 種子色赤, 煮え易い, 風味, 剛が出る
4月中播種, 5月下移植, 10月上収穫	粒食, 菓子	小山 一志	ウルチ, 草丈2m以上, 特産品として共同組合で栽培
4月下~5月上播種, 9月下収穫, 直播	ダンゴ, かぼちゃ粥, 饅頭	吉田 昭吉	モチ, 明治から栽培, 草丈80~100cm, 種子色黄, かぼちゃ粥(かぼちゃ+アワ+さとう+醤油)
4月下~5月上播種, 9月下収穫	90007に同じ	〃	モチ, 種子色茶, 稈長80~100cm, 明治ごろから栽培
4月下~5月上播種, 9月下収穫	ダンゴ(白玉), 米の代用	〃	大粒, 種子色濃茶, 草丈80~100cm
4月下~5月上播種, 9月下収穫	90009に同じ	〃	大粒, 種子色白, 草丈80~100cm
4月下~5月上播種, 9月下収穫	あずき団子, 饅頭	〃	粉食, 種子色茶, 桜田義二(字中島)より譲受
7月中・下播種, 10月下~11月上収穫	ソバハット	〃	昨年種子, 土用の頃播く
	粒食, 米に混入(10%)	及川ヤスジ	種子色黄, 穂色赤, 2年前三陸の種苗センターより購入, ごはん1升到1合までたく
5月播種, 10月上収穫	けんちん汁, ジュウネハット	石川シゲ子	種子色白
5月播種, 10月上収穫	ハトムギ茶, 牛の疣取	〃	いもち羅病, 粉2升を与えて乳牛(初産牛)のイボをとる
6月中播種, 10月中収穫	アanko, オコワ(不祝儀)	千葉福男(石材店)	室寝村釘子からもらった
6月5日播種, 10月上収穫	アン(アankoモチ, おはぎ)	〃	種子色:赤
6月上播種, 11月上収穫	酢の物(若布と和える)	〃	ヘソ黒, 偏平粒, 種子色緑, やや紫斑病
6月上播種, 10月下収穫	ゆで豆, 煮豆	〃	丸粒, ヘソ黒, 種子色緑, 販売用, 紫斑病
10月中収穫	あえ物	鈴木	種子色やや黒(白が好まれる), 今年中川から譲受
5月25日播種, 10月10日収穫	きびだんご	〃	モチ
	飼料用	〃	稈長1.5m, こぼれ種
7月下播種, 10月上・中収穫	ソバ切り	大仁田徳松	5.6升播いて, 6.7斗収穫
5月下~6月上播種, 10月収穫	煮豆, サヤ食	〃	手あり, ヘソ白, 種子色赤
5月下~6月上播種, 10月収穫	煮豆	〃	手あり, ヘソ白, 周囲橙, 種子色うす茶, 90024よりやや早くサヤが取れ, 完熟期は90024と同じである
4月末~5月上播種, 5月末移植, 9月収穫	モチ食	関口 正男	耐寒性株選抜, 長穂型, 道又紋太郎氏選抜, 稈が柔らかい
4月播種, 5月中移植, 10月下収穫	煮豆, 枝豆, まめしつとぎ	湯沢 孝	ヘソ茶, やや小粒, 種子色緑
5月末播種, 10月10日収穫	アワモチ(大福餅の皮につき込む)	㈱団平湯田工場	モチ, 稈長150cm, 種子は二戸市から入手
	餅, 団子, あえ物	およね食堂(販売)	種子色黒, 黒は油が多い, 以下90035までドライブイン販売品
	餅, 団子, あえ物	〃	種子色白

番号	収集	種 属 名	品種系統名	収集場所	収 集 地	標高 (m)
90031	10.24	<i>Phaseolus vulgaris</i>	クロアズキ	市場	岩手県和賀郡沢内村字太田	-
90032	〃	<i>Vigna angularis</i>	シロアズキ	〃	〃	-
90033	〃	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	〃	岩手県和賀郡沢内村字長瀬野	-
90034	〃	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	〃	岩手県和賀郡沢内村字和泉沢	-
90035	〃	<i>Panicum miliaceum</i>	イナキビ	圃場	岩手県和賀郡沢内村	-
90036	10.25	<i>Glycine max</i>	ピットラマメ	〃	山形県最上郡真室川町大字及位(ノゾキ)	280
90037	〃	<i>Glycine max</i>	アオバコ	〃	〃	280
90038	〃	<i>Glycine max</i>	イツツッパマメ	〃	〃	280
90039	〃	<i>Glycine max</i>	ヒトリムスメ	〃	〃	280
90040	〃	<i>Glycine max</i>	クロマメ	〃	〃	280
90041	〃	<i>Glycine max</i>	アオマメ(アオバコ)	〃	〃	280
90042	〃	<i>Vigna angularis</i>	クロカワアズキ(クロアズキ)	〃	〃	280
90043	〃	<i>Vigna angularis</i>	アズキ(オクアズキ)	〃	〃	280
90044	〃	<i>Vigna angularis</i>	ワセアズキ	〃	山形県最上郡真室川町大沢字太郎	150
90045	〃	<i>Glycine max</i>	クロマメ(イツツッパマメ)	〃	〃	150
90046	〃	<i>Glycine max</i>	シロマメ	〃	〃	150
90047	〃	<i>Glycine max</i>	シロマメ	〃	〃	150
90048	〃	<i>Glycine max</i>	カネモチマメ	〃	山形県新庄市十日町野中	-
90080		<i>Perilla frutescens</i>	エゴマ(ジュウネン)	市場	岩手県和賀郡沢内村(後送品)	-
90081		<i>Glycine max</i>	クロマメ	〃	〃	-
90082		<i>Amaranthus hypochondriacus</i>	アマランサス	〃	〃	-
90083		<i>Sorghum bicolor</i>	キビ	〃	〃	-
90084		<i>Echinochloa utilis</i>	ヒエ	〃	〃	-
90085		<i>Fagopyrum tataricum</i>	ダツタンソバ	〃	〃	-
90086		<i>Vigna sinensis</i>	クロアズキ	〃	〃	-
90087		<i>Phaseolus vulgaris</i>	TOUHOKU/90/87/NK.	〃	〃	-
90088		<i>Phaseolus coccineus</i>	TOUHOKU/90/88/NK.	〃	〃	-
90089		<i>Phaseolus vulgaris</i>	TOUHOKU/90/89/NK.	〃	〃	-

耕種概要	用途	農家名	備考
	赤飯	およね食堂（販売）	種子色黒，煮ると赤くなる，皮が強いので破れにくい。
	ヨウカン，あん	〃	種子色白，早く煮える
	あん	〃	
	あん	〃	
	きびごはん	〃	モチ？，種子色茶，搗精すると黄色になる
5月下播種，10月下収穫	枝豆煮豆	舟生 敏也	種子色黒，やや偏平粒
5月下播種，10月下収穫	酢の物（サンベズケ）	〃	種子色緑，草丈65cm
5月下播種，10月下収穫	枝豆向き	〃	やや早生，丸粒，種子色黒，名称は「小葉5枚」の意
5月下播種，11月収穫	豆腐，味噌，ゆで豆（枝豆）	高橋今朝吉	緑がかった白色粒，極晩生過熟気味でも枝豆になる
5月下～6月上播種，10月下収穫	喉の薬，煮豆，枝豆	〃	枝豆としては早生
5月下播種，10月下収穫	サンベズケ	〃	やや紫斑病，偏平粒，クロマメより晩生，ヒトリムスメより早生
5月下～6月上播種，10月上・中収穫	あん，赤飯	高橋たけし	白莢，赤飯向（皮が硬い），赤地色黒斑，こしあんにむく（歩止りが良い），20年前譲受
5月下～6月上播種，10月中・下収穫	あん	〃	白莢，90042より美味，晩生（作る人が減った原因）
5月末播種，9月中収穫	あん，かぼちゃ煮	佐藤テル子	早生やや小粒（昔は大きかった）
5月下播種，10月上収穫	枝豆，煮豆	〃	種子色黒，早生枝豆向け
5月下播種，10月下収穫	味噌	〃	ヘソ・種子色白，やや小粒，莢淡色
5月下播種，10月下収穫	味噌	〃	ヘソ茶，種子色白，やや紫斑病
5月下播種，10月中収穫	味噌	今田喜一郎	種子色白，本来は枝豆用，スズユタカより収量2～3割減収，甘味があるので玄米味噌にむく
		およね食堂（販売）	種子色白
		〃	種子色黒
		〃	種子色黄
		〃	
		〃	
		〃	種子色黒，艶無，長小粒
		〃	種子色白，小粒
		〃	種子色白
		〃	種子色黒，艶あり，丸粒